

FIBA 3x3 Basketball Rules (2022年1月24日アップデート) の変更点

2022年1月24日に更新された FIBA 3x3 Basketball Rules の前バージョンからの変更点を以下にまとめています。本変更は日本国内の競技大会において 2022年4月1日より適用いたします。

第 16 条 得点：ゴールによる点数

<削除、追記>

- 16-2-2 ディフェンスのプレーヤーがボールのコントロールを得ないでディフェンスリバウンドをタップする、相手チームのプレーヤー間のパスをはじく、相手プレーヤーのドリブルを奪おうとタップしたことによってボールが直接バスケットに入った場合、得点が認められ、得点は最後にボールをコントロールしていたオフENSEのプレーヤーに与えられる。
最後にボールをコントロールしていたオフENSEが
- ・ 1 ポイントフィールドゴールエリアでボールをはじいた、またはタップしたにいた場合は 1 点
 - ・ 2 ポイントフィールドゴールエリアでボールをはじいた、またはタップしたにいた場合は 2 点をカウントする

第 27 条 5 秒ルール、第 28 条バスケットに背を向けてプレーすること

- 第 28 条が『バスケットに背を向けてプレーすること (Back to the basket) 』に変更され、ストーリングに関する記述が第 27 条から第 28 条へ移動。
- ストーリングの成立要件から“ボールを保持したまま”が削除され、バスケットに背または身体の側面を向けて継続してドリブルした場合にバイオレーションとなる秒数が 5 秒→3 秒に変更。

第 36 条テクニカルファウル

<赤フロント箇所の追記>

- ・ 次のような行為でゲームの進行を遅らせる。
 - フィールドゴールもしくはフリースローが成功し、バスケットを通過したボールに故意に触れる、または新たにオフENSEになったチームがすぐにボールを拾おうとすることを妨げる。
 - フィールドゴールもしくはフリースローが成功し、ディフェンスのチームに妨げられていないにもかかわらずバスケットを通過したボールを速やかに拾おうとしない。
 - フィールドゴールもしくはフリースローが成功した後に、セミサークル内で積極的にディフェンスをする。
- 【補足】積極的にディフェンスをするとは、ドリブルを妨げようとディフェンスをしたり、パスを妨げようと手を広げてディフェンスをしたりすることである。

第 46 条スポーツスーパーバイザー

<赤フォント箇所の追記>

46- 5 FIBA Internal Regulations、FIBA 公式競技規則および FIBA3x3 公式解説の違反。また、暴力行為、もしくは暴力行為につながる可能性のあるゲーム中の事象について審判へ知らせることができる。

第 47 条 審判：任務と権限

- これまでは競技時間のラスト 30 秒とオーバータイム中に限られていたチャレンジリクエストができる状況に『どちらかのチームが 19 点に到達した後』が追加
※チャレンジがリクエストできる対象はルールに規定
- チャレンジが出来る対象に以下の状況が追加（47-5-2）
 - ・ゲームの残り 2 分、どちらかのチームの得点が 19 点以上に到達したあと、またはオーバータイムにおいてアウトオブバウンズが宣せられず、ショットクロックがリセットになる前にチームが得点したかファウルを受けた時、アウトオブバウンズをしたか否かの検証。

参照：

FIBA 3x3 Rules

<https://fiba3x3.com/en/rules.html>

JBA 2022 バスケットボール競技規則

<http://www.japanbasketball.jp/referee/rule2022>